

第 19 回多可町子ども・子育て会議 議事録

日時	令和元年5月28日(金) 15:00~17:00
場所	多可町役場3階 特別会議室
参加者	<p>《委員》(15名)</p> <p>出席：鈴木会長、木俣副会長、安平委員、岸本委員、藤田委員、門脇委員、荻野委員、高橋委員、清水谷委員、藤本委員、原委員、日下部委員、中川委員、高見委員、岡本委員</p> <p>《事務局》(多可町教育委員会)</p> <p>岸原教育長、石井課長、市位</p>
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 教育長あいさつ 3. 委嘱状交付 4. 自己紹介 5. 正副会長の選出 6. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) 町内保育園部・幼稚園部在籍数について…資料1 2) 放課後児童クラブ事業の利用状況について…資料2 3) 公私連携による両キッズランドの運営状況について…資料3 4) 第二次子ども・子育て支援事業計画策定について…資料4 5) その他 7. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) 第二次子ども・子育て支援事業計画策定について…資料5 8. その他 <ol style="list-style-type: none"> 1) 次回の会議開催予定 第20回子ども・子育て会議 9. 閉会

1. 開会

【事務局】

皆さん、こんにちは。定刻より若干早いですけども、今日はお昼間の大変お忙しい時間帯にもかかわりませず、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

それでは、ただいまから平成31年度、本来は令和元年度ですけども、第1回目、通算で第19回目の子ども・子育て会議を開催させていただきます。

まず1枚目をめくっていただきまして、皆様方、子ども・子育て会議名簿をつけております。もし誤字脱字等ございましたら訂正をさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

3ページ、4ページにつきましては多可町子ども・子育て会議条例をつけておりますので、またお目通しいただきたいと思っております。

開会に先立ちまして岸原教育長よりご挨拶を申し上げます。

2. 教育長あいさつ

【教育長】

皆さん、こんにちは。お忙しい中、ご苦勞様です。お世話になります。任期は2年となっております。今年4月1日から令和3年3月31日までということでお世話になります。ただし、所属の代表として出ている方につきましては、1年で代わられるということもあると思います。

平成24年に制定された国の子ども・子育て支援法に基づいて、平成25年度から各市町で「子ども・子育て会議」を開催しています。年間、3回ほど開催をし、町の子育て施策について検討したり、町の子育て支援計画を策定していただく会議です。多可町の子どもたちが一層健やかに成長するために、また子育てをする母親や家族にとって子育てしやすい環境にするには、どうすればよいかなどについて、ご意見をお願いいたします。保護者や学校園、そして地域や関係機関の代表等、いろいろな分野から出ていると考えております。忌憚のないご意見を聞かせてください。

多可町の子どもたちがより健全に育ちますように、そして多可町が子育てしやすい町になりますように、ご尽力いただきますようお願いいたします。

3. 委嘱状交付

全員に委嘱状を交付。代表でキッズランドやちよ保護者会代表門脇佳織様に委嘱状を交付。

4. 自己紹介

自己紹介

5. 正副会長の選出

会長・・・鈴木正敏氏 副会長・・・木俣美代子氏

【事務局】

ありがとうございます。お世話になりますので、よろしく申し上げます。

それでは、会長、副会長、席を用意しておりますので、そちらのほうでお願いしたいと思います。
それでは、一言ずつご挨拶をお願いいたします。

【副会長】

回数は多く来させていただいていると思いますけれども、まだまだ難しい内容が多くて理解していきにくいかと私自身、思っております。また皆様方の協力を得まして何とか前へ行けたらと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

【会長】

特に保護者会から選出していただいている皆様とか、よろしく申し上げます。また新しい運営の先生もどうかよろしく申し上げます。2年間ということで選出いただいておりますので、今年3回会議があり、今後続く場合は、代わっていただくこともあるかと思っております。特に保護者会の皆様方におかれましては、いろいろご意見を聞いていただいて、ご参加いただきたいと思っております。

子ども・子育て会議というのは、皆様のお子さん方を、どんなふうに育てていこうかということで、いろんな制度ですとか、それから配置ですとか、いろんなことを考えていくという会議であります。計画が今年立てなければいけないということで、今年計画するものが、また5年ぐらい続きますので、慎重に計画を立てていただきたいと思っております。ですので、なるべくいろいろなご意見を頂戴して、その計画に反映できたらと思っております。前の計画が平成27年の計画でしたので、これを今度は、令和版に計画しなおすところですよ。

【事務局】

令和2年から5年間になります。令和6年度末、令和7年の3月までの計画です。

【会長】

多可町は待機児童の問題等もなく、ほぼ一人ひとりのお子さんに、かなり手厚くできるのではないかと思っております。安心して参加いただければと思います。ただ、いろいろな話を聞いておかないと、行政のほうも事務局のほうもわからないことがありますので、特に園の先生方も、それから地域の方も、保護者の方も、ぜひいろいろな声を出していただけたらと思っております。わからないところは途中議事を止めていただいても結構ですので、よろしく申し上げます。

ではまず、町内保育園部・幼稚園部在籍数についてからご報告をお願いします。

6. 報告事項

1) 町内保育園部・幼稚園部在籍数について

【事務局】

<資料1の説明>

【鈴木会長】

園児が徐々に減っているということですが、いかがでしょうか。

【事務局】

もう出生が多可町全体で約80名代、100名を切っていますので、後、また資料を見ていただいたらいいと思いますが、ここ数年で30名、40名ずつの出生数に減ってきています。5歳児ですと137名、2歳児ですと83名ぐらいですので、もう、かなり違います。50名ぐらいは違います。

【会長】

3分の2ですけれども、小学校児童もだんだん減る感じです。どうでしょう。

【委員】

本校も今年ついに1学級に。どうしようかという感じです。

【会長】

何とか持ち直してほしい感じですが、上がったりがったりということもあります。1回下がることもあり、また増えることも場合によってはありますから、そこに少し期待をかけています。

全体として町で子どもを育てやすいとなってくればいいのと、経済が上向かないといけないということです。一応、場所としては足りていますが、お子さんが皆ちゃんと保育を受けられるということで、何とか回っています。足りなかったらどうしようと、少し心配していたのですが。何とか運営としては、非常にうまくいっていると思いますが、なるべくお子さんが増えていただければと思います。そんな雰囲気を、政策で少し醸し出すようにできればと思います。

【事務局】

今年から少子化対策の理事も配置をして考えられるということで聞いておりますので、何とか、出生数が増え、たくさん転入いただくような方策が考えられたらと思います。

【会長】

そういうのが、ちゃんと町全体でまとまって政策を実施することが大事だと思います。

【教育長】

そうですね、これは教育委員会だけではできないので、定住とか地域振興とか、そのあたりも含めて、どうやって子どもを増やしていくかを共有しているところです。

【会長】

いろいろな施策をやらないと増えませんので、ぜひいろんな方面からお願いしたいと思います。そこで明るい話題が、ここで出していただけたらと思っています。

これから、園を出て小学校に行くからのことになりますが、放課後児童クラブ事業の利用状況について、ご説明をお願いします。

2) 放課後児童クラブ事業の利用状況について

【事務局】

<資料2の説明>

【会長】

まだお子さんが小さいときは大丈夫ですが、大きくなってきたらご説明のような問題が出てきますが、あまり小学5、6年は人気がないのですか。

【事務局】

小学校から下校すると家に帰ってそのままいるのですかね。どうなのでしょう。

【会長】

大きくなると、家でおやつもあればそのまま過ごせますものね。

【委員】

家にいるほうが自由なのではないでしょうか。

【会長】

学童へ行ったら、いろいろ言われるし、座っていなければならないし行きづらいですね。でも、利用はちゃんとあるのですか。

【事務局】

キャパ的にはあるのですが、ただ今日のニュース見ていましたら、今年もものすごく暑い夏になると言っておりましたので、部屋の中にずっといるというのも、今後考えていかなければならないところです。利用の多いところは密集しますので、悩んでいるところです。

【会長】

屋外で発散できないということですか。

【事務局】

そういうことになりますので。

【会長】

人気なくなりますよね、特に高学年になったら、はいられない。

【事務局】

その辺は去年が異常やったのか、これがまたずっと続くのかということになると、ずっと暑さが続くことも考えながらやっていくというのが、教育委員会としては、そう思いながら手を打っていくというふうには、問題共有しているところです。

【会長】

空調とかは、ちゃんと一応あることはあるのですか。

【事務局】

はい、あります。

【会長】

それでも、ぎゅっと人が詰まってくると暑いですよ。冷房が効かなくなるので。ただでさえ熱量が高いので、30人も入ったら効かなくなるでしょう。

他に何かご質問等ございますでしょうか。よろしいですか。

では、次に3)の公私連携による両キッズランドの運営状況について、説明をお願いします。

3) 公私連携による両キッズランドの運営状況について

【事務局】

<資料3の説明>

【会長】

両キッズランドとも、民営化して2カ月しかたっておりません。10連休があったのでより短いとは思いますが、いかがですか。

【委員】

まだ2カ月足らずしかたっていないので、全然、そんな親も園もまだわからない状態だと思うのですが、通園バスのことは、町のほうには報告はさせてもらっていると思いますが、4月から昨年までと違う業者になられて、当初20分遅れとかいうこともあったり、歩いて来てる子が園服を着て歩いていても、気づかなくて通り過ぎて行ってしまったりということがあったと聞きます。今も、通園バスについては不安定です。止まるところが、まだ定まっていないところもあります。

【事務局】

バスにつきましては、今年度から、また新たに入札をさせていただいて、新しい業者になっています。今まで子どもを特に移送された経験がないような業者で、幾らかご連絡をいただいているのですが、また業者と調整をさせていただいて、子どもさんの通園に当たっていく対応等々、細かいところまで詰めさせていただきたいと思っております。多分、添乗の方も、今までは業者さんだったり、添乗員さんもキッズランドかみの保育士が兼ねていたりしましたので、非常に子どもさんの対応というのは得意だったと思いますが、全然違う方が添乗されていたりされるので、その部分については、やはり子どもの命を預かって運んでいただいているという件については、もちろん、こちらもよく話しまして対応をしていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

【委員】

お願ひします。

【会長】

入札なのですか。

【事務局】

はい。そうです。

【会長】

入札という制度が、質が見えないので正直、困りますね。逐一、気がついたことを言っていたくしかないですが。

【委員】

子どもが通園バスの話をしなくなりました。前は楽しかったのですね、通園バスが。通園バスでかけてもらった音楽の話とかをしていたのですが、今は多分、乗車されている添乗員さんの名前も、子どもはよくわかってない。私たちもわからないのですが。何か、あまり会話がないうたいです。

【会長】

ひたすら座っていると。

【委員】

お願ひします、はいはいはいはい、という感じで行ってしまうので、あまり会話がないうから、子どもも多分ないのでしょう、きっと。

【副会長】

前の業者さんが長くされていて、前の添乗員さんというのは、もうベテラン中のベテランだったですから、泣いても、どうしても、うまいこと言って乗せてくださっていましたし、それこそ途中で園服を着ている子がいるから、止まろうかというようなこともありましたし、サービスのなところもありました。その辺が慣れてないのでしょう。それで、もう正式なバスの時間表というのは出たのでしょうか。

【委員】

はい、こういうところで工事があつたりとかで、ちょっと時間が違つたところがありました。

【副会長】

工事しているので、仕方がないです。

【委員】

固まりにくいところで。

【会長】

入札では、数に出ないですからね。

【副会長】

徐々に慣れていただくしかないです。

【事務局】

というのが多分、特に専門的にされていない方が今、添乗していただいていると思いますので、お子さんによっては、対応が違うお子さんもいたりしますので、また教えていただいて、できるだけ子どもたちが楽しく通園バスに乗っていただけるようにさせていただきたいと思います。

【委員】

はい、よろしくお願いします。

【副会長】

もし余裕があれば、職員が乗るとい、その辺の配慮がもしできるのであれば、勤務の中ですが、いかななものでしょうか。

【委員】

その辺は一応、年間に3回は予定しているのですがけれども、ローテーションの関係で、朝早いお子さんも増えてきますので、そこも、しっかり対応してあげたいので。

【副会長】

難しいですね。

【委員】

ちょっと調整をさせていただきます。

【会長】

乗るのも負担ですし。課題は皆さん、認識されているということなので、取りあえず、それぞれのところで努力をしていただきたいと思います。通園バス問題は急務として対応いただきたいと思います。夏ぐらいまでには何とかと思います。他はいかがですか。

【委員】

キッズランドやちよは、例年と同じような行事にさせていただいていますし、今のところは保護者の方から、あれが悪かったとか、そういうことも聞かないので、通園バスも前と一緒になので、全然今のところは特に聞いてないです。

【会長】

わかりました。また何かありましたらご意見をお願いします。

園のほうからは、いかがですか。お忙しいかとは思いますが。

【委員】

私の方は保護者の方にいろいろ教えていただいて、導いていただいているのかなというのを、すごく感じて、ありがたいと思っています。保護者の方と地域の方とか、いろいろ先生、ああだよ、こうだよと。また、以前から、継続しておられる囑託の先生とか、みんなで力を合わせて私を支えてくださっているというのが、すごくありがたいと思って、これに感謝しつつ、安全安心に1年間、過ごしていきたいと感じております。

【委員】

私も本当に他地域から来ておりますので、多可町、八千代のことも本当にわからなくて、地域のこともほとんどわかりません。だから、残ってくださっている町から来てくださっている先生方に本当にお聞きしながら、手厚いサポートを受けて何とか毎日過ごさせていただいております。でも、なかなかスムーズにはいきません。後手に回り、抜けることが多く、それこそお便りも少し遅くなったりして、も

うご迷惑をおかけすることもありつつ、本当に何とか、前へ進んでいるのかどうか分かりませんが、毎日を暮らしているというような感じです。早く慣れたいと思っています。

【会長】

ぜひ協力してやっていただいて、支え合って子どもたちのために頑張ってくださいと思います。よろしくをお願いします。

あと、第三者評価を実施していただく際には、30万円から40万円程度でしょうか。

【事務局】

2園でしたので1園25万円です。

【会長】

その辺の補助のあり方とか、少し考えていただかないと、なかなか難しいと思います。できれば、みんなで第三者評価をしていただくのが一番いいかと思います。西脇市は全園で始めました。というか、教育委員会がやっていて、私もかかわっています。

【事務局】

確かにそうです。本当に、今回新たな分については、マニュアルが揃っているとか、事務处理的なものが結構あつたりしますで、先生が行かれましたら、恐らく保育の質とかという形には当然なってくるのでしょうけど、それはなかなか、今の評価基準では、少し難しいと思うところです。

【会長】

取りあえず評価機関に依頼をしてということで、でも少し経済的な負担がかかりますので、そのところは徐々に予算に上げていってもらおうということをお願いできたらと思います。

【事務局】

他市では何年間されるのですか。

【会長】

2年か3年ぐらいです。西脇市の任期は2年。三木市では、3年で私が一回りして、もう一人の方が3年で一回りしてもらって、一応全園回る。三木市も、西脇市も全園回るのですが、どちらも、全部市が払っているの、園には負担をかけないという方針です。予算規模が違うこともあるかと思いますが。

【副会長】

多可町も町ですか。

【事務局】

キッズランドの場合は町なので町で実施しました。それで今度、民間では施設型給付で半分ぐらい返ってくるか、年度末の3月の人数の何人分かで、何かそういう計算があるので、大体それで計算したら15万円ぐらい返ってくるという加算があることは聞いています。しかしながら15万円ぐらいは出してもらわなければならないということです。そこら辺、どうなのかというところは感じるところです。

【会長】

そこを何とか一声、お願いします。結構しますよね。

【委員】

鈴木先生が西脇市、三木市へ行かれていますのは、第三者評価なのですか。

【会長】

第三者評価ではなくて、三木市は国の項目を三木市版に読みかえて、評価機関に頼んで、書類系はそちらの評価機関がしていて、保育内容は私とK大学の先生が二人で、それぞれ評価します。西脇市は全く第三者評価項目とは全然関係なく、共通カリキュラムをもとにしていて、一応大学の教員が3人ぐら

い来ていて、ら〇大学の先生と、あともう一人と私と三人でやるということにしています。そこに校長先生や他の先生が入られます。

【委員】

行政の独自の評価ということですか。

【会長】

西脇市は、完全に独自です。三木市は独自と言いつつ評価機関に頼んでいるので、本当に経験があり、良いアドバイスをされる場所に依頼されていました。第三者評価は機関によって全然様相が違います。機関によって評価の質が全然違うのです。だから、いいところでないといけません。入札だけで選んでしまうと、えらいことになります。

【事務局】

今回は入札で、この業者に決まりましたので。

【会長】

ここは一時的ではなくて、継続したものとして、金額のみの入札ではなくて、と考えていただくと助かります。入札で中身が変わったら、もう全然変わってしまうでしょう。

【事務局】

全然変わります。

【会長】

それは、もう継続してやっていただくのと、予算的にはあまり負担をかけないように、少しでもいいから補助していただくといいと思います。

【委員】

西脇市とか三木市は、市のほうがお金の負担はしてくれているのですか。

【会長】

負担しています。

【委員】

全額ですか。

【会長】

はい、全額です。自治体ごとの財布の大きさが異なりますから、すぐには真似できませんが。

【委員】

評価の質が違うといいますが、どこの機関が評価の質がいいというのは、先生がアドバイスとかされているわけですか。

【会長】

いや、三木市さんは探してこられたところが結構良かったのです。

【事務局】

その場合は市の独自の評価基準をつくっているのですか。

国の見本があって、それをアレンジしているのですか。

【鈴木会長】

国の見本を、少し減らしたり、増やしたりしながら、独自の評価基準を作っています。

【事務局】

市の評価基準を作成して、検討の区分については評価機関にして、保育の内容を先生が評価するのですか。

【会長】

保育内容に関しては、私とか、もうお一人の先生が担当するという感じです。国の方の基準も私が関与しましたが、アレンジする分には良いのでは、という感じです。精神だけ引き継いでいただければ嬉しいです。

【事務局】

今回、多可町が受けたのは、結果的には、実質保育の善し悪しとか、元保育士とかもいらっしゃるのですが、1日では、保育の善し悪しも見れないというところで、そういう書類上、例えば皆さんに周知しているかとか、計画をつくっているかとか、そういう基準で見ておられた部分も多くあったと思います。

【会長】

書類をつくっているかという点で、ただあるか、ないかではなくて、どんな形ですかとか、この記録は、こうやって使うといいですよというのを、その評価機関は言うのです。ほかのところではこんな風に改善の工夫をしていますよ、とか提案してくださるのです。そうすると、こんなふうにして、話し合いができてとかというのは言える人たちなので、すごく、私も勉強になるのです。一方、私たち大学教員の役割は、ほとんど相談会みたいなもので、研修のような形で順々に先生が来て、何か悩み事をいろいろ聞いてという雰囲気でするので、最初、三木市では、すごく抵抗があったのですが、やってみたら保育が少し変わったりとか、環境を変えられたりとか、いろんなことがあって、今では楽しみにしてくれているようです。

今、西脇市が初めて始めるので、みんな抵抗感があるという感じです。でもそのうち多分、良さがわかるかなと思います。

【事務局】

そうですね、改善していく方向のものになると思います。

【会長】

評価というのは良くするためのものであって、点数をつけるのが目的ではないのです。ですから、「評価」という名前をやめましょうと国の役所で言ったら、それはできませんと言われたので、そのままなのですけど。ただ、行政のほうとしてはそう言うのも仕方ないのですね。何年かかるかわかりませんが、やはり時間がたってから、ゆっくり成果が出ればと思います。

【委員】

言われたように、キッズランドについては、もう既にやられて、その比較ということがあるから、どうしても同じところかどうかということは、しないと意味がないと思うのですが、それ以降、またそういうことを町として取り組むのであれば、言われたように西脇市とか三木市のように、ちゃんと保育の内容の評価を中心にできる形でしてほしいと思います。よく聞くのは、言われるように、書類が整っているかどうか重視されているような、我々の園の施設監査でもそうなのですが、保育の内容は一つも見ずに、書類が整っているかどうかだけで監査しますので、そういうのではないほうがありがたいと思います。

【会長】

書類が整っているかの観点のみではなく、やはりどう改善するかのところで評価すべきだと思います。私は三木市でよう勉強させてもらっていますが、良い形でできたらと思います。

【事務局】

西脇市は公立があって、民間になったので、たくさんの先生が恐らく教育委員会に来られたのですか。幼稚園ももう数年で閉園になると聞いておりますので。先生が帰ってこられた中で、結構質の向上に寄与できる方がおられるのかも知れませんね。

【会長】

そうですね、だから、そういう方々がまだ残っている間は、ずっといろいろな園を回っておられる。ただ、みんなで公開保育などをしながら、三木市もそうですけど、お互いに保育を見合いながら質の向上に努めるということがなされていますので、そういう研修の体制が、体系的に考えられているということがあると思います。その点も、多可町で少し考えていただきたいと思います。

【事務局】

キッズランドから帰ってこられた先生が、そういう監査に回られたら一番いいのですが、多可町の人員配置も、少し厳しいところがありますので、うまいことは、なかなかいかないかもしれませんが、少し思案のしどころかと思います。

【会長】

また、これからは新規採用がないので、本当にそれぞれの園から人材を出していただかなければならないと思います。

ということで、もう少し様子を見ていただいて、また何かありましたらご意見のほうをお願いします。通園バスなども含めて改善ができたらいいかと思いますね。

【副会長】

給食はどうか、統一献立があると、少し聞いたことがあるのですけれども、一皿になったということ、聞かせてもらったり、量が少なかったりということも聞かせてもらったりしたのですけれども、いかがなものでしょうか、保護者の方としては。

【委員】

それも言ったほうがいいのかと思っているのですが、4月の献立が、3月までのキッズランドの献立とがらっと変わって、メニューが1個になったり、お好み焼きとオレンジということが、今までのキッズランドではなかったのですが、あったのです。あと、献立表に書いてあるデザートがついていないことも1回あったのかな。ということ。

【会長】

移行期で少し通常ではない混乱があったのでしょうか。

【委員】

違うのです。パイナップルの日だったと思うのですけどね。

【委員】

オレンジの日ではなかったですか。

【委員】

何で今日は飾ってないのと言ったら、パイナップル缶が来たのが、すごく分厚くて、子どもたちに均等に割っていたら、飾るものがなくなってしまったのです。

【委員】

食べてない、出てないということが。

【委員】

そうですか。

【委員】

4月の最初のほうだったと思います。

【委員】

そうですね。確認します。お好み焼きは。

【委員】

お好み焼きは大きかったのですよ、ちゃんと栄養は足りているようですけど。

【委員】

一応、基本は3品を基準にしているのですが、お好み焼きのときは、中にいろんな具材を入れ込むので、どうしても一品とオレンジに4月はなってしまうって、中にミンチであったり、ひじきとか、人参とか、普通のお好み焼きでは考えられないような食材も一緒に入れて、なので、いろんな栄養価は足りているようにはしたのですが、今までのキッズランドかみは、そういうお好み焼きというメニューは初めてだったと思うので多分、驚かれたのだと。

【副会長】

おやつに言われたことがあるけれども、昼食としては出なかったかもわかりません。

【委員】

なかったです。

【副会長】

4月というのは、子どもが食べやすいものが一番いいですからね。

【会長】

お好み焼きの中にハードルの高い具を全部入れたのですね。

【委員】

そうです。食べやすく、少しでも野菜をとってもらおうという、苦肉の策だったようで、驚かれたと思います。

【委員】

ワンプレートみたいなことが多かったのと、あと、汁物が極端に少なかった。

【委員】

汁物、1週間に1度という設定はしてあったので。

【委員】

何かちょっと少ない、前よりですよ。3月までと、すごく極端に変わった気が多分、子どもも保護者も、すごくしていたのです。あさかさんと同じメニューになったじゃないですか。キッズランドかみのほうは、自分で白ご飯を持っていくのですが、あさかさんは炊き込みご飯とかという日が、園からの提供ですけど、あるのです。なので、炊き込みご飯の日は、あさかさんは、おかずが、炊き込みご飯にも具が入っているから。

【委員】

少ないですか。

【委員】

そうです。だけどキッズランドの子どもたちは白いご飯を持っていくのです。という、この、味付きご飯と味がついてないご飯の。ここを統一したから、そういうことが起きたのかと思ったりもしていたのですが、でも、6月の献立表を見たら、すごく豪華になっているのですよ。

【会長】

少し落ち着いたのかな。

【委員】

そうなのです。メニューのこととか給食のことは。改善はすごくされている、私はそう個人的には受け取っているのですけど。

【委員】

ちょっと4月、5月は調理師、栄養士が張り切りすぎて、あさか食が良かったねというのを、話し合っただけ反省して、キッズはキッズの西京焼きとか、ひじきのおいしいものとか、おいしいものがたくさんあったから、それも絶対継承していこうねと言って、私は現職で食べさせる子が、あれおいしかったよと言ったら、それ入れますとあって、多分それで6月の献立が変わったのだと思います。

【委員】

そうです、すごく豪華になっているのです。4月と比べると多分、すごくメニューから豪華だと思うぐらい違うので、改善は多分されているから、言わなくていいかと思っただけ。

【会長】

改善して良かったですねということで。けがの功名で、最初はあつと思っただけということで。

【副会長】

5園で、給食の献立表について、会議か何かそんなのあるのですか。

【委員】

それは、もうないです。

【副会長】

もう、なくなりましたか。以前はあったのですけれどね。

【委員】

またキッズのほうも、主食を導入することになりましたので、また炊き込みご飯も、おいしいのをしますので、食べに来てください。

【会長】

ということで、大事なことです。食は楽しみですからね、これからもよろしくお願ひします。では、そういうことで運営状況については終わらせていただきますが、よろしいでしょうか。では、4) 第二次子ども・子育て支援事業計画策定についてご説明をお願いします。

4) 第二次子ども・子育て支援事業計画策定について

【事務局】

<資料4の説明>

【会長】

人口の話になると、何かあーあという感じですけども、毎年転出があるということですね。本当に転入を増やしていただく施策しかないと思いますが、これをもとにして計画を立てるということです。非常に難しいです。現状、いろいろなことを充実するのは簡単ではあるのですけど、将来を見ると、どうしようかというところではあります。何かご質問、ご意見があればお願いします。

【事務局】

逆に、地元において、何か感想なり、そういうのを聞かせていただいて、非常に参考にしたいという気もするのですが。

【委員】

まだそんなに、特に流れもないですけど、私としては、できれば、あと一人、二人ぐらいは生みたいですけど、仕事のこともあるし、と思うと、なかなか。

【会長】

仕事の復帰が、ですか。

【委員】

仮に今から転職となったら、なかなか勇気のいる年齢になってきたので、そう思うと、やはり足踏みしてしまいます。

【事務局】

例えば以前、多可町が18歳未満の子供さん3人目から保育料を3分の1に軽減する事業の実施であったり、そういうのがあったら、転入に踏み切ろうかなと思うかどうかという話ですけど、なかなか、それだけでは、難しいですか。

【委員】

とてもありがたいですけど、3人目からですし、今年3歳児からも無償になるので。でも、一番お金がいるときって0歳児、1歳児、2歳児なので、一番保育料が高いので。でも、そのときに預けないと仕事ができないです。

【会長】

0、1、2歳が保育料が一番高いのですよね。

【事務局】

国基準よりは多可町の保育料は安いですが、一般的な4、5歳児の無償化の4,000円、5,000円からすると、やはり高くなってしまいうところですよ。

【会長】

一番大変なときが、ですね。

【委員】

そうなのです。3年育休があるわけでもないし、一般企業なので1年しかないのです。

【副会長】

職場の方々に、もう少し休みを年単位でくださいと。

【委員】

そうですね。

【委員】

うちの家としては、子どもを増やすのは、もう年齢的に無理ですけど、家の周りを見ていると、僕が42歳になるのですが、5つぐらい下、35歳ぐらいの近所に住んでいる方で未婚の方が多いため、近所に子どもが少ないし、僕の小さいときと比べると、全然時代が違うのですが、うちの子でも家の周りに同い年の子が何人おるかなみたいな。散歩していても、おじいさん、おばあさんしか出会わないみたいな感じなので、近所の子が結婚して子どもができたらいいのには思いますが、なかなか難しく。急に結婚が増えて子どもが増えたらいいのというような感想になりますけども。

【会長】

教育委員会の婚活ではないですけども、婚活されて、そのまま出て行かれることもありますので、施策としても微妙ですけども。

【事務局】

やはり結婚をされるというのが一番で、そこを何とかできたらいいという気もするのですが。国は、そういう分析はしています。

【会長】

そうですね。教育をしっかりしてもらって、人に向きあう男子、女子を育てていただくしかないかと思えます。でも本当に地域としてのポテンシャルはあるということですけど、まず入り口のところでということで、ご意見をいただきましたので、ぜひ町としても、少子化対策のための施策が必要という声はこちらでも挙がったということで、課を超えた対策をよろしく願いいたします。

では、協議事項ですが、第二次子ども・子育て支援事業計画策定のことに移ります。資料5のほうをご説明、お願いいたします。

7. 協議事項

1) 第二次子ども・子育て支援事業計画策定について

【事務局】

<資料5の説明>

【会長】

大体大まかにメインのところを出していただいて、おらく保育のことに关しては、ほぼ予想がついて充足ができているというところでは。放課後児童、つまり学童も、先ほどの5、6年に人気ないねぐらいの感じでいけるということでは。

ショートステイは本当に、聞いたことがありますか。困ったら、本当にお預けできるということですけど。

【事務局】

逆に、知らないほうが、困っていないということかもしれないですけど、制度としてはあるということでは。

【会長】

一応制度があるということは周知しておくべきなので、何らか緊急的にそういうことがありますよね。お父さんもお母さんも倒れてしまって、入院ということになって、本当にお子さんの面倒が見れないとか、近くにおじいちゃん、おばあちゃんがいらっしやなくて誰も助けられないので、泊まりがけで預かってくれませんかというところがショートステイです。緊急のセーフティーネットであるのです。いつ、そういう状況になるかもわからないのです。でも現在のところ、例えば皆さん、健康で、ある程度、おじいちゃん、おばあちゃんも健在でいらっしやって大丈夫なのですが、どこかが歯車が狂うと、そういうことがあるのです。急にあっちも入院、こっちも入院ということがあったときには絶対必要なもので、周知は必要ですけども。ただ希望を取るとゼロになってくるということでは。この辺をどんなふうにかかですね。

【事務局】

アンケート結果としては認識がない方々が大半だったということですので、実情として事業を知れば、やはりニーズが欲しいと言うことになると、数としては少し上げたいと。

【会長】

それを見越して、提供量はこのくらいという予測を立てて数値を書きますというようなことです。本当にどうなるかわかりませんから。なので、それは大事なことだと思います。

子育て支援事業、これは人気がある。充実していくぞというところで、少し夢を語っていただいて、計画に。どれだけ予算が出るかわかりませんが、一応、ちゃんとこれからの充実路線を描いていただきたいので、これは課長に、いろいろ頑張ってください、入れていただきたいと思っています。

一時預かり、病後児保育については、先ほどのお話で、高橋先生のところで随分お世話になったのですけども、一応これも、おひさまクリニックのところで病児ができていくということで、そのあたりを書くということです。

あとファミサポ、よろしいですかね。私は、ファミサポを利用していたのですが、私たち夫婦の地元が大阪と名古屋なのです。だから、おじいちゃん、おばあちゃんたちにもなかなか頼めなくて、近くの方をお願いをして、おうちに来てもらって、見てもらったりとか、お迎えに行ってもらったりとかということがあって、今は本当に親戚みたいに、3人目のおばあちゃんという感じですが、そんな方がいらして助かってました。

【事務局】

看護師さんだったら、晩に子どもをそこに預けて行かれているというのは、あるみたいですが。

【会長】

夜の方が、夜間保育はあまりないですから。大きいところでは夜間保育がある保育園もあるのですが、ここはないので、今そういうこともあるので、一応準備はしたほうがいいかと思います。

【事務局】

そうですね、そういう準備は当然、今、別の課で検討されているみたいです。

【会長】

検討中なのですね。それは見る側の会員と、見てもらいたい側の会員と、そこをマッチングしてということがあるのですが、あまり知らないですね。あまり使ったという方がないから、使わないと思うのですが。大体間に合っているということですね。おじいちゃん、おばあちゃんとか、お友達とかが身近におられますので。

【委員】

これは何日か前をお願いしてということなのですか。

【事務局】

恐らく、基本的に、急に言ったら、なかなか難しいという気はするのですが、急に言って、うまいこと合えば預かることもできるみたいです。

【会長】

そうですね。うちも何か朝電話してということが、相手の方に電話して、一応書類だけ後で書いて。

【副会長】

急なことがあると、困りますよね。

【事務局】

それこそ、送迎のこともあるみたいですし、それについては国、県から補助が、3分の1ずつ、あるみたいです。ここは検討課題の一つです。

【会長】

そうですね。何かのときの保険が必要という問題かと思います。このような制度があるのですよ。

【事務局】

これは、よく言われる周知不足と言われますけど、実際問題、本当、多可町の需要としてはないというのがあるのかもしれませんが、もし供給があって知らされた場合は、使われる方は恐らく数名はおられるという気はします。

【副会長】

病児保育も、初めのうちは全然わからなかったというのが本当だったと思うのですけれども、年々増えているというか、結構数値的には増えてきたと思うのですけど。

【事務局】

もう年間90数名の利用になっています。

【副会長】

あれもお母さん方の口から口へというのがあったりするのでね、今では結構増えています。

【委員】

11 ページの一時預かりの一番上の2つも、同じように幼稚園に行くけど一時預かりを利用するか、幼稚園に行って幼稚園の放課後のやつを利用するという意味合いということですね。

【事務局】

そうです、なので、下に全てかかってしまうということになると。ここらは専門の園の先生のような専門家の方でないといけない数値になってきますので、そういうことになります。実際、小さな町ですと、もう幼稚園しかないので、0歳から2歳でも、そこに行かざるを得ないので、認定をして、そこに行く制度を国が認めていますので、そういう部分での開示表が出てきてしまっているのです、こういう形になります。

【委員】

逆に、都会のほうでは2号認定を取って、私立幼稚園に行って、一時預かりを取って利用するのも、ここに入るということですよ。

【会長】

都会の話なので、こちらには関係ないということですね。もう供給量としては足りていますから。本当にニーズのあるというか、そのポジションのお子さんは、そのポジションにちゃんと行けていますので、ここはほとんど待機がゼロですね。

【事務局】

そうです。もう足りていますので無理やり入れるということはないです。

【会長】

ないですね。計画というのはお役所仕事ですので、難しいところが多々あるかと思いますが、恐らく大事なところですよ。先ほどのショートステイとか、ファミサポとか、住民の方々があまりご存知ないところとか、これから、どんなふうに、充実や周知を進めるべきなのかというところから始まって、進めるに当たっても、どこまでどういうふうにするかというようなことを、また議論していただきたいと思っています。

というわけで、何か他にご意見ございますでしょうか。

【委員】

子育てふれあいセンターが4月に旧中町幼稚園の方へ移転してきました、ニーズ調査の結果、利用してみたいと数値が結構ありました。現実には、利用される方が少し増えてきたというのを肌で感じています。4月の時点で100名ちょっと、きちとした数値がわかったら良かったのですが、4月の段階で、昨年度と比べて100名ちょっと増えています。今まで八千代にあったときは、どうしても在宅という0歳から3歳、おうちにおられるお子さんの家庭の支援みたいな形になっていたのですが、こっちに移ってきてから園に行かれている方が、本当にたくさん来られるようになって、この間の日曜日ですけど、加美と八千代の双方やったときに、もう30組ぐらいが、私は担当ではなかったのですが、30組ぐらいの親子さんが一度に来られたみたいで、昔の遊戯室と、それから子ども未来課があったところが自由利用のお部屋ですけども、大勢利用していただいたみたいで、エアコンを早く入れていただかないと環境が追いつかず、ちょっと困っている状況です。

【事務局】

今、取り組んでおります。

【会長】

よろしくをお願いします。

【委員】

本当に、おじいちゃん、おばあちゃんがお孫さんと来られたりというのも本当に増えてきましたし、こうやって場所が変わって、期待して来られているというのを、本当に感じています。

ずっと子どもが少なくなっている中、数字も残しながらしてくださっているところで、施設や、ハード面だけではなくて、ソフト面でもしっかりと整えていって、この数字を確保できるように、維持していけるように、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。体制も変わって、正職員の保育士も今来てくださっているのも、そういうところも生かさせていただきながら子育て支援というところを、もう一度見つけ直していきたいと思っています。

【会長】

ちょっと盛り上がっているみたいなので嬉しい限りです。

【委員】

今、お話を聞かせていただいて、ショートステイの話、これはぜひ進めていただきたいと思います。結構、今、母子家庭といいますが、そういう家庭もあるのです。私の担当の中にも何人かあったりして、近くに、おじいちゃん、おばあちゃんもおられないし、親戚もない。というようなところもあったりで、本当に最近、相談にお越しになられたのですが、もし倒れたりとか、そういうことがあったときに、さて本当にどこへ助けを求めていくかなというふうなこと、ふっと思ったりしたことがあったので、ぜひこれはお願いしたいです。実際に頼まれるかどうか、わかりませんが、そういう受け入れられる体制だけは、ぜひ整えてほしいと思いました。

それと、子どもが少なくなっていくというところ、何とかしなければならぬと思います。

【会長】

その点につきましては、いろいろ可能性を探っていらっしゃる方が、たくさんいらっしゃいますので、おそらく行政が中心になって交流や出会いの場を提供いただけるとと思います。

【委員】

そうですね、ぜひともお願いしたいと思います。

それと、もう最近、子どもを巻き込んだような交通事故とか、今朝もありましたけど、ああいうのを見たら本当にいたたまれません。今日の子どもたちは、たまたまスクールバスを待っているところへ来たみたいと思いますけども、やはり子どもたちの登下校、非常に心配な部分ありますし、そういう意味

で言ったら、もちろんコミュニティバス、あれも必要な分かもしれませんけども、もう乗ってないバスを走らしておくよりも、それこそ通園、就学前の子どもだけではなく、本当にもう低学年あたりの学校の就学児童の登下校なんかも、特に八千代なんかは、ある程度されていますけど、加美区にしても中区にしても、本当にもうそういうふうなことを考える時期になってきているのかなと感じます。それも一つ検討課題にしても良かったらと感じました。

それと、キッズランドの新しい体制になって、それぞれ問題点が上がってましたけども、その辺のところは、これまで行政のほうも質、サービスを落とさない形で民営化すると言ってきているので、きつちり、その辺のところは行政の責任でもって、しっかり指導というか、見ていってほしいと思います。

【会長】

安全とかセーフティネットという意味で、町として、いろいろ整えると同時に、登下校の安全というのも考えていくというのが、これから、多分このあたり、しっかり計画に入れていかなければならないことかなと思います。

【委員】

手前味噌で申し訳ありませんが、この春、町外で住んでおりました私の息子家族がふるさと多可町へ戻って参りました。現在、定住推進課の補助金をいただき、住まいのリフォーム中であります。孫は、子育てふれあいセンターのいろいろな行事に喜んで参加させていただき、岡本先生にも大変お世話になっております。少子高齢化に悩む多可町に微々たる貢献をしているのかなと喜んでおります。

このように一人でも多くの子育て世代がこの町へ帰ってきてくれたり、移住してくれたりするような魅力的な町にするために、子育てに関する施策の充実は欠かせないことだと思います。現実には孫がお世話になっている立場としても、それを切実に願うところでもあります。また、村づくりにたずさわるものとしても若者たちが一人でも多く住んでくれるような魅力的な村づくりを進める中に、子育てという視点が欠かせないものであるということを実感しているところです。

【会長】

率先して町の施策に乗っていただいているところで、是非またそのような意識を広めていただければと思います。

【事務局】

いろいろ活用していただければと思います。

【委員】

私、現実を見せていただきまして、このように子どもが減っていったらキッズランドやちよに来る子どもも減っていくのかと、少し危惧しています。ですから、いろんな施策が多分あり、あちこちで取っておられ、方策があると思いますが、出生もそうですし、帰っていただくこともそうですし、そういうところ、行政も考えていただいて、また案があれば、また募集というのもあると思いますので、何かそういうふうな、子どもが少しでも増えるようにしていただかないと、キッズランドは潰れてしまいます。よろしくをお願いします。

【会長】

みんなで頑張っていけないといけませんね。

【委員】

キッズランドかみが民営化になって、まだ2カ月しかたってないですけども、皆さんがいろんな意見を寄せてくださるので、おなかに持っていないで直に言ってくださって、それも子どもたちのためという思いが、すごくあるので、もう、それは真摯に受けとめて頑張っていきたいと思います。何か本当に、もう目の前のことしか見えてなくて、あ、そうや、子ども減っていくのやな、でも今いる目の前の

子どもが幸せになるように頑張っていたら、将来は明るくならないかなと思って、いろんな方のお力やご意見を聞きながら、今の現実を見ながら進んでいけたら将来につながらないかなと思いながら頑張っていきたいと思っております。

【委員】

少子化の影響で3.4.5歳児の入園は減少、0.1.2歳児は増加しています。つまり、0.1.2歳児が家庭で過ごす時間が短くなっているという事でもあるので、それを補う園の責任も大きく、『三つ子の魂百まで』と言いますが、園に預けていただいても健やかに育つという保育環境を整えていきたいと思っています。

子どもたちの生きていく力を育めるように、先生たちが豊かな心で関わっていただきたいと思うと、先生の質もとても重要です。地域・地元の先生たちに長く勤めていただいてキャリアを積んでいただくために、先生たちの働きやすい環境も作っていかないといけないと思っています。

保育の仕事も続けたい、結婚して子育てもしたいという思いは私たちが母親になったころはとても難しかったけれど、今の先生たちの保育への意欲を見ているとせっかく積んだキャリアを更に高められるように、継続していけるようにしたいと思います。ただ、そういった有能な人材の確保が難しく、保育者をめざして養成校に行った人たちが、生活に便利な養成校周辺で働けるように、住宅手当や1年務めるとお金がもらえるといった補助制度をつくられている行政、市町村もあり、地元で就職されない新卒者も多いです。

住民の方々には結婚して、出産していただきたい、ここで育ててよかったと思えるような地域づくりを行政の方々には整えていただきたい。保育では、家庭では経験できない、味わえないようなことが園で出来る、みんなの中で育ちます、と言えるように責任を果たしていきたい。そこで働く保育者も長く勤めていただける職場環境を作っていく、それぞれが、それぞれの役割に当事者意識をもって、考え実行できるような多可町になればいいな、と思います。

【会長】

手当が出れば人が集まるかもしれませんね。職場への復帰しやすさと、新しく保育現場に入りやすいこと、この2つぐらいを、行政として頑張っていただければと思います。復帰しやすさは大事ですからね。せっかく地元に戻りたいと思っても、そういうところで障壁があつてはと思います。ご自分の子どもも育てなければいけないので、しっかり支援をいただいて、ちゃんと保育現場に復帰できるというのが理想ですね。そこで保育職に就くに際してインセンティブがあると、もっといいかもしれません。本当に0、1、2歳の入所が増えていますが、ちゃんと細やかに見ていただいて、育てやすい環境を整えて、是非そんな感じで人材確保をお願いします。

【委員】

今日はあまり話題として出てないですけども、この4月からキッズランドが民営化されたことについてです。それによって、随分町としてのお金は、かかっているお金はだいぶ減っているはずですが。それとともに10月からは無償化もあります。幼児教育の無償化は3歳からになります。4歳、5歳は、無償化を多可町は自分ところのお金で、もう既にやっているわけです。だから、それが10月からは国、県が4分の3、出してくれて、町のは、持ち出しはもちろんあるんですけども、そこも今までよりも町自身が出すお金は随分減るはずなのです。ということは、今まで子どものために使っていたお金が随分節約できているはずなのです。というところがあるので、ぜひ、そのお金をしっかり死守してもらって、教育委員会としては、それをぜひ子どものために、そのまま、全体のお金というの、なかなか難しいのはわかるのですが、多可町全体として、子どものための今まで使われていた部分のお金は、しっかりと確保してもらって、それを我々だけではなくて、今も話がありました小学校の通学路を整備す

る、通学路を安全にすることもそうでしょうし、基本的にはゼロ、1、2歳の保育料の部分も、もうちょっと安くするというところもあるでしょうし、そうやって子どものために使ってほしいと思います。その結果、多可町で子育てしたいと言って来てもらえたら、余計人口が増えてくれたらうれしいと思いますので、まずそこを、しっかり確保、取られないようにしてほしいと思いますので、どうかよろしくお願ひします。

【会長】

取られないようにということで、ご意見ありがとうございます。

【教育長】

がんばっていきます。

【委員】

やはり子どもがすごく減っているということが、将来を考えるとすごく心配で、やはり、それぞれの園の保育が、いろいろあつたりするのですが、それぞれに良さを伸ばしながら、協力しながら、でも、自分ところの園も子どもさんをたくさん預けていただけないように頑張っていくといけないなというところもあるのですが、先ほども言われましたけど、ゼロ、1、2歳の保育料が本当に高いというのは、仕事をしている母親にとっても、いっぱい仕事しても保育料で費用がかかってしまうというのは、本当に負担になっているかと思うので、そちらのほうも考える余裕があれば考えてもらえたらと思います。それから子育て支援について、先ほどショートステイの話が出たのですが、私も町の方と話して、こういうサービスがあるというのをお聞きしたことはあるのですが、でも多分、いろんな方はご存じないと思うので、それこそ外国から来られている方であれば、日本におじいちゃん、おばあちゃんがいらつしやらない、外国に行かないといらつしやらないということで、そんなときに自分の体調が悪かつたりして、土日なんか小学校がお休みで、子どもさんを見ていくのがしんどい方とかいらつしやと思うので、本当に育児がしんどいというのは、シングルの方であつたりではなくても、そういう本当に先ほど鈴木先生も言われてましたけど、地元で子どもを預ける方がない場合に、見てあげられたら、お母さんも仕事のしんどさがあるけれども、そうやって見てもらえると助かれる、気持ち安らぐ時間が持てるのではないかなと思うので、本当に、いろんな方に知っていただくことは、大事ではないかと思ひました。

【会長】

しんどいときは、しんどいと言える地域でもあつてほしいですし、行政としても少し努力をしていただきたいと思ひます。ありがとうございます。

【委員】

初めに、1学級編成などで、クラス数がすごく減っているという話を聞いています。私は、これで今、中町南小学校に勤めて、3校目です。もう随分、子どもたちが学校の中での雰囲気というか、数が減つてきているというのは、身をもって感じているのですが、どんな学校でもそういうことがあるのですが、子どもがだんだん減つてくると、2学級が、もう子どもの数が40人を切つてくると1学級にならざるを得ない。そういうので、うちは6年生が40人、ぱんぱんの1クラスになつてしまつたのです。やはり、こんなに、もう一人の子どもが貴重さというか、一人いてくれたら2クラスだったのに、ものすごく悩ましいというか。でも、そういうのは通り抜けてきたわけで、できるだけ子どもたちに良い教育を提供していつてやらないといけないということは改めて思つているのですが、教室をたまに見に行くと、もう本当に教室の中で6年生が40人いたら、すごい割合を占めております。担任はどこにいるのかと思つたら、黒板のそばに立っているのですが、そういう状態で頑張っていきたいということが一つ。

それから、もう一つは学童保育が、うちの学校の空き教室で子どもを放課後預かっておられて、その主任と月に1回、連絡調整みたいなので、去年の終わりごろからさせていただいているのですが、すごく大事なことだと思ひまして、やはり同じ子どもを学童という視点で見られている分と、学校で見えている分とつき合わせて、子どもにかかわっていくのを、より良くするにはどうしたらいいのかという、短い時間ですけど、そういう話ができるというのは、月一ですけども大事なことだということで、今も続けさせてもらっているのですけども、やはり連絡調整というか、園と学校とのつながりも大事にしていかなければならないと、改めて思っています。

【会長】

それぞれの園と小学校と学童と、この辺が全部つながって、中学までつながると、本当にいいなと思うのですけども、またぜひそのようなご努力をお願いしたいと思います。

【委員】

何かわからないこともいっぱい、いろいろ知れて良かったです。子どもが少なくなっているの、何か生んで育てやすい環境とかができたら、どんどん子どもも増えるのではないかとは思ひます。二人目を生んだので町からお祝いとしていくらかさしあげますとか、そういう、昔、何かあったと聞いたので、旧八千代町時代のときみたいに、そういうのがあれば、もっと生めるかなというのも一つ思ひました。

【委員】

私は今、職場にも恵まれて、預けるこども園にも恵まれて、概ね満足して子育てさせていただいているのです。でも次、子どもが小学校に上がったら、多分中町南小学校に通うことになる、すごく遠い道を登下校するので、今おっしゃられていたバスの利用とかは、やはり安心して送り出したいので、ぜひ検討をしていただけたらと思ひますので、よろしくお願ひします

【会長】

大きな宿題が、そちらにありましたね。事務局としてはいかがでしょう。

【事務局】

また、それは検討させていただきます。当然、いろいろ中学校の問題も出てくるでしょうし、先ほどある委員が言われたように、コミバスのほうも、これから見直していくようなことも聞いておりますので、その中で、どうしていくかというようなことも課題だと思ひます。本当に、ああいう事件があると、もう取り返しがつかないようなこととなります。難しい課題かもしれませんが、前向きに検討します。

【会長】

ここだけでは検討できないかもしれませんが、さまざまな分野で交流しながら検討していただくことが、必要なことだと思ひます。

【委員】

今日、会に参加させていただいて、いろいろとお話を伺って、非常に貴重な話を聞けて良かったと思ひます。今日、みどりこども園が親子遠足だったのですけど、雨が降ってアスパルを利用させてもらひまして、先生にいろいろ出し物とか考えてもらって子どももすごく喜んでいました。個人的には、すごく園のほうには助けてもらって非常に満足しています。あと、今日アスパルを利用したのですけども、あと旧中町幼稚園が新しくなっていますので、地元の施設を利用したいとか、そういうのをしたいと思ひます。

あと、そういう情報とか、子育ての支援のいろんな情報とか、そういうのがなかなかわからないところもあつたりするので、そういうのが周知できるような、何か方法があればと思ひました。

先ほど言われたファミサポとかいうのは初めて聞いたので、そういうのが何か、もう少しわかりやすい周知の方法があればと思いました。

【会長】

文字だけで難しく書かれても、なかなかわからないかもしれませんので、もう少しポップな感じで、誰でもわかるような感じで何か工夫したいですね。

【事務局】

ファミサポは多分、逆に知っておられたらびっくりするぐらいで、よく研究されておられる方だと思います。ホームページ、子育てリーフレットに載っていないので、それは正解です。国の事業としてはあります。

【会長】

でもショートステイとか、それこそ制度としてあるけども、町でまだやっていないとか、周知が足りないとかいうところありますね。

【事務局】

それは、多可町の一つの大きな課題ですので、それは検討しております。

【会長】

それだけ、あまりそこまでニーズがないというか、おじいちゃん、おばあちゃんもいて、地域もしっかりしていてというところで、恵まれた地域ではあると、私とかは見ているのです。でも、やはりニーズが少なくても、セーフティネットとして必要なこともありますので、そのところも努力していただくのも、今後5年間の目標としていただけたらと思います。

他にご意見はございませんでしょうか。では、大体このあたりで協議事項等を終わりたいと思います。今日は皆さん、ご意見ありがとうございました。

では、その他についてお願いいたします。

8. その他

【事務局】

いろいろ皆様から貴重なご意見をいただきまして、また町のほうでも検討させていただきたいと思うのですが、一つ、事務局からのお願いなのですが、幼児教育、保育の無償化する子ども・子育て支援法というのが今年10日に国のほうで成立をいたしました。これを受けまして、国のほうが今週、県の方に説明会を開いております。またそれを受けまして、県の方が6月中旬に市町の方にも説明会が実施される予定にはなっております。

多可町のほうでは、平成29年度から町の単独事業としまして4、5歳児の保育料を無償化しておりますけれども、ただいま、その町の負担を、年度ごとに今、試算をしておるような状況です。それとシステム改修なども進めているところではあるのですが、副食費・実費徴収額も、今から検討をしていかないといけないところなのですけれども、また保育料の徴収基準額のほうも改定をしないと行けませんので、年度初め、今回この子ども・子育て会議が年に3回と申し上げたと思うのですが、こちらの会議のほうで皆様、委員のほうに諮らせていただきたいと思いますので、8月ぐらいを目途に、臨時で、もう1回、会を持たせていただきたいと思いますと考えているのですが、またその日程調整につきましては、改めて連絡させていただきたいと思いますので、ご協力をどうぞよろしくお願ひしたいと思います。

【教育長】

両キッズランドが民間にということで、質が落ちるということは、私は心配しておりません。同じようにやっていただける、また民間のいいところを、取り入れてやっていただけたらと思っております。ただ、どうしても体制が変わるときは、予想外のトラブルが起こることがあります。トラブルがないようにということで、法人さんとも相談をしながらやってきたのですが、今日聞いて、ああ、なるほど、そういったこともあるのだなと聞かせていただきました。通園バスの件とか、そのあたりも早急に解決できるように手を打っていきますので、いろいろお感じになることがありましたら、出していただいて、より早く解決していくということが大事かと思っております。よろしくお願いいたします。

それから、小学生のバス通というのは、あまり考えたことがありませんでしたが、その辺も視野にも入れていかなければならないということも、今日、ご意見としていただきました。できることばかりでは、ありませんが、無理だなというようなときは、無理だということも言わせていただきますので、よろしくお願いいたします。

【事務局】

臨時の会議につきましては、調整しながらということになりますので、またご連絡させていただきたいと思っております。

<事務連絡>

9. 閉会

【副会長】

1点だけすみません、先ほど委員様がおっしゃられた予算のこと、お金が浮いてきているからというようなことを話されていた。この前も私、お話ししてもらったのですが、プールの件はどうなのでしょうかと思います。子育てするなら多可町でという子育てゾーンができた以上は、やはり、もう7月からプールが始まるかと思うのですが、少しでも使いやすく利用しやすい町民プールを、もしできるのであれば、補正はあるでしょうけれども、何らかの形でお願いしたいなと思っております。余計なことを言ってしまったかもわかりませんが、この前から気になっていたもので、よろしくお願いいたします。

本日はどうも長時間になってしまいましたけれども、どうもご苦労さまでした。あと2回、臨時で入りましたら3回になろうかと思いますけれども、また皆さんと一緒に考えながら意見を出し合っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。